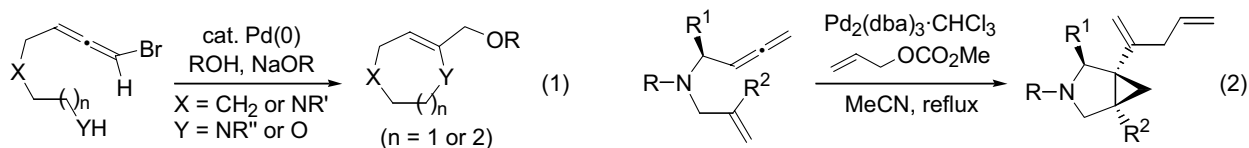


29【B】1502

アレンとパラジウム触媒の新しい反応性を利用した複素環合成  
Novel Reactivity of Allenes with a Palladium Catalyst: Application to Heterocycle  
Syntheses

○大野 浩章<sup>1</sup>(<sup>1</sup>阪大院薬)

遷移金属を用いたアレンの環化反応は、近年の有機化学において最も発展している分野のひとつである。その一方で、ハロアレンを用いた環形成反応はこれまでほとんど検討されてこなかった。我々は最近、ブロモアレンがパラジウム触媒とアルコールの存在下、アリルジカチオン等価体として機能しうることを見出した。この新しい知見を応用して、分子内に求核部位を有するブロモアレンを用いて反応を行うと、希釈条件を必要とすることなくヘテロ中員環化合物が効率的に得られることを明らかにした(式 1).<sup>1)</sup> さらに、ハロゲン原子を有していないアレンの閉環反応を検討している過程において、<sup>2)</sup> 既知の反応形式とは明らかに異なる興味深い新規シクロプロパン化反応を見出した(式 2).<sup>3)</sup> 本講演では、反応機構の考察を含め、これらの研究における最近の知見について述べる予定である。



【参考文献】 1) *Angew. Chem., Int. Ed.* **2003**, *42*, 1749; *Heterocycles*, in press; 2) *Angew. Chem., Int. Ed.* **2003**, *42*, 2647; 3) *Org. Lett.*, in press.